

追跡！ごみたちの行方。

市が処分する
ごみ・資源ごみの
およそ **84%**

もえるごみ
219,238t

もえないごみ
9,979t

粗大ごみ
4,977t

**プラスチック製
容器包装**
9,168t

**資源ごみ
(びん、かん、ペットボトルなど)**
17,597t

**資源物
(新聞紙、雑がみ、雑誌、
アルミ缶など)**
21,113t

1日当たりの
もえるごみの量
ごみ収集車 **300**台分

燃えるもの
破片

破片
アルミ
鉄など

破片
ガラスなどの燃えないもの

焼却施設

ごみを燃やして処理する施設。最新の西部清掃工場では、1,300℃の高温でごみを燃焼、熔融させます。その時に出る熱や蒸気を使ってToBiO(古橋廣之進記念浜松市総合水泳場)の施設で使う温水や電力に利用しています。1日に燃やすことのできるごみの量は450t。

- 工業用塩 (業者へ売却)
- 発電 (電力会社へ売却)
- 廃熱 (温水プール利用)

灰
灰を処理したもの

**焼却した灰から
舗装材料などに
使用するスラグに
生まれ変わる量**
9,061t

ごみは高熱の燃焼熔融炉で燃やされ、同時に灰が溶かされます。この溶かされた灰は、水で冷やされ、「スラグ」と呼ばれる、ガラス状の砂粒のような状態となり、道路のアスファルトやコンクリート製品などに再利用されています。

リサイクル業者

いろいろなものへ
リサイクル

自治会などの
集団回収や
リサイクル
ステーション

売却

回収

埋立(最終処分場)

1年で埋め立てる
ごみの量 **21,740t**

平成22年

平成18年

平成44年度
途中に
いっぱい
になる。

埋め立てできる
残りの量(概算) **46**万t (49万m³)

今年生まれた子が成人するころ、
ごみはどこに行くのか?

このままのスピードでいくと、ごみを埋め立てる最終処分場は20年後の平成44年にいっぱいになる計算になります。次の世代に持ち越さないように、市民1人1人がごみを出さない、ごみを資源として利用するなどのごみに対する意識を高める必要があります。

資源化

再生容器や
建築資材などに
生まれ変わる量 **28,612t**

- 再生びん
- 再生ペットボトル
- 再生容器
- アルミサッシ
- 建築資材

資源ごみとして回収されたものばかりでなく、破砕施設や焼却施設からも分別され、専門の資源化業者へ運ばれるものもあります。これらは、新しい原料から製品を作るよりも少ないエネルギーで再製品化できるために、環境にやさしい原料といえます。

決められた日に、ごみ袋をボンと出せば、気分はスッキリ。自分の出したごみがその後どこに運ばれ、どのように処理されているかを考える人はあまりいないでしょう。そこで今回は、ごみの行方を追跡。すると、ごみの多くは資源化ができることが分かりました。しかし、家庭などから出ているごみを見ると、およそ84%がもえるごみ。これらは焼却して、灰になったものを埋め立てるだけです。きちんと分別すれば、立派な資源にできるのにもったいない。今一度、ごみについて考えてみましょう。